

作文を書こう 7

(意見作文)「なぜ?」「…だから」

(保護者と児童・生徒へ)

ニュージャージー補習授業校 (2012年9月8日)

作文とは、「自分の思いを相手(友だちや先生)に伝える」ということです。これは**意見作文**と呼ばれています。

この意見作文では、自分の思いや意見を持つに至る背景(理由)を書くことが求められます。つまり意見作文を書くこと＝考える力を養うこととなります。

【作文の基本型】

ぼくは(私は)○○○だ思う。

なぜなら…だから。

作文を書き慣れていない子ども達は、数行の作文を書き終えて「終わった」「書くことがない」と言います。実は、数行の作文から、**子ども達の考えを広め、深めて書かせること**に作文教育の値打ちがあるのです。

【例文】

ぼくは、野山の花をつむのはいけないと思います。(意見)

この一文をもとにして、記述力＝思考力を養う方法を考えてみましょう。

この一文を書いてきた子どもに対して、どんな指導があるのでしょうか？

当たり前であり当然ですが(難しいことですが)**まず、書いたことほめます。これが大切です。**

【指導】 対面で座る→子どもの話を聞く→話をふくらませる→書き加える→詳しい作文になる→子どもは喜ぶ→大人も喜ぶ→ほめる→自信を持つ→意欲がわく→興味を持つ→∞

考えることは、子どもにとって(大人もそうですが)難しいのです。

書けないのは、子どもが悪いのではなく、書き方・書くコツを知らないからです。

だとしたら、書く方法を教える方が早道です。

「家庭は第二の補習校」です。「保護者の皆さんは第二の先生」です。

私の実践から、初等部低・中学年に指導すると極めて有効です。

「な」「た」「も」「だ」を使って書いてみましょう！

【このように書く＝意見作文になります】

① **ぼくは(私は)**「○○○思う→まず自分の意見を書く。

ぼくは、野山の花をつむのはいけないと思う

② **なぜなら→理由。** どうしてそう思うのか説明する。

なぜ花をつもうとするのだろうか

きつと しかし

③ **たとえば→例をあげる。** とにかく本で読んだことやテレビで見たことも含めて具体例をあげる。

この前、テレビを見ていたら

『○○』という本に書いてあった。

④ **もしも→展開と検討。** 思いつきでもよいから新しい角度、別の見方を書いてみる。

花の気持ちになってみたら

こんな意見もあるけれど

⑤ **だから→結論。** まとめ

だから、野山の花はつんではいけない

意見作文は、結局、「起」「承」「転」「結」を意識して書くということです。初等部高学年や中等部の子ども達には完璧に知って使えるように(書けるように)してほしい事柄です。将来、会社等では常に使う書き方ですから。